

実践研究 教師のライフコース

— 教育実践の山脈を描く —

大 脇 康 弘 編著
スクールリーダー研究会+

目 次

目 次 詳細目次	i
はじめに 教育実践を紡ぐ	iv

第Ⅰ部 「実践研究 教師のライフコース」を創る

第 1 章 「実践研究 教師のライフコース」を拓く —教育実践の山脈を描く—	大脇 康弘	1
第 2 章 Go Beyond the Borders —共に学び共に育つ教育実践—	田中満公子	13
第 3 章 教師のライフストーリーを読む —語りと語り直しに注目して—	高井良健一	27
第 4 章 Y なすことで得られた学びの連鎖 —一個の学びが集団の学びへ—	中山大嘉俊	35
X 教師が育つ環境 教師を育てる環境 —させてもらえて育ち、させてみて育てる—	中山大嘉俊	47

第Ⅱ部 教育実践の山脈を描く

第 5 章 教師として問い続けた「学ぶということ」	西川 潔	57
第 6 章 同僚・生徒・保護者や地域との関わりの中で育つ —女性教員の教育実践から学校づくりへ—	太田 洋子	69
第 7 章 学校教育活動の内発的改善に取り組む	長井 勘治	81
第 8 章 学校づくり実践と教員としての成長	深野 康久	93

第Ⅲ部 教師研究へのアプローチ

第 9 章 教師の成長とその条件 —新たな〈能力主義〉に対抗して—	油布佐和子	105
第10章 教師が学び合う「実践研究」の方法 —授業改善を軸にした学校改革へ—	石井 英真	117
第11章 教師のライフストーリー研究の射程 —研究史と展望—	高井良健一	127
第12章 スクールリーダーの実践研究を育む —スクールリーダー研究会の役割と活動— 『スクールリーダー研究』総目次	大脇 康弘	137
おわりに 教育実践のバトンをつなぐ		146

詳細目次

実践研究 教師のライフコース—教育実践の山脈を描く— 大 脇 康 弘 編著

はじめに 教育実践を紡ぐ

第Ⅰ部 「実践研究 教師のライフコース」を創る

第1章

「実践研究 教師のライフコース」を拓く
—教育実践の山脈を描く—

大脇 康弘

<要約>

1. 代表的な教師のライフコース研究
2. 「実践研究 教師のライフコース」を提起する
3. プロジェクト「実践研究 教師のライフコース」
 - (1) 教師のキャリアステージ：四つの時期区分
 - (2) プロジェクト「実践研究 教師のライフコース」の取り組み
4. 「実践研究 教師のライフコース」の方法
 - (1) 「実践研究 教師のライフコース」の認識枠組
 - (2) 「実践研究 教師のライフコース」要綱
5. 実践研究の認識論的基礎
 - (1) 実践者による実践研究
 - (2) 「実践研究 教師のライフコース」の意味
 - (3) 「理論知・実践知対話論」の構築
 - (4) 教育実践者と教育研究者の協働実践研究
6. 「実践研究 教師のライフコース」の方法論的課題

第2章

Go Beyond the Borders

—共に学び共に育つ教育実践—

田中 満公子〈高校〉

1. 教師としてのキャリア
2. 学級新聞を活用した学級づくり：若年期
 - (1) 大阪府立C高等学校と生徒たち
 - (2) 班活動と学級新聞
 - (3) 学級新聞がスタート
 - (4) 最大の危機と再起
 - (5) 最終号と旅立ち
3. 学年づくりへの挑戦：中堅期
 - (1) 未知への挑戦
 - (2) 1年次と2年次の軌跡
 - (3) そして卒業へ
 - (4) 新たに得た視座
4. 学校の強みをつなぐ：教頭期
 - (1) 大阪府立E高等学校の特色と課題
 - (2) 教頭の職務

- (3) 学校改革と教頭
- (4) 自らを支える
- (5) 教頭を支える
- (6) 校長を勝たせる
5. 危機管理と組織づくり：校長期
 - (1) 50歳の女性校長が赴任
 - (2) 経営革新プロジェクト
 - (3) 大きな試練
 - (4) 学校を丸ごと任せられる人
6. 学校経営を支援する：副理事期
 - (1) 学校現場に押し寄せる変革の波
 - (2) 教育委員会事務局と副理事の職務
 - (3) 学校訪問と教育行政
 - (4) 学校経営を語る
7. 実践研究の意義と難しさ

第3章

教師のライフストーリーを読む
—語りと語り直しに注目して—

高井良 健一

はじめに

1. 新任期の語りと語り直し
2. 中年期の語りと語り直し
3. ベテラン期の語りと語り直し

おわりに 新自由主義を乗り越える教師の
日々の営みを支える

第4章 Y

なすことで得られた学びの連鎖

—一つの学びが集団の学びへ—

中山 大嘉俊〈小学校〉

1. 教師としてのキャリア
2. 遮二無二取り組んだ若手教諭期
 - (1) A小の状況
 - (2) 苦手だった図工科の指導
 - (3) J先生との出会い
3. 校長の意を体することに努めた教務主任期
 - (1) C小で担任として順調だった2年間
 - (2) 疲労の限界まで達した教務主任としての4月
 - (3) 校務分掌組織の改善に取り組む
4. 教職員との距離に苦悩した教頭期
 - (1) 課題が山積していたD小の状況
 - (2) PTAや地域と深まったつながり
 - (3) なかなか縮まらなかった教職員との“溝”
5. さまざまな立場の方と出会った指導主事期
 - (1) 予想とは違った指導主事の仕事
 - (2) 達成感もなく虚しさが残った苦情対応
 - (3) 問題対応する中で自分の中の何かが変わった
 - (4) 様々な立場の方と出会って得たもの
6. 人材育成に取り組んだ校園長期

- (1) 学校組織の活性化をメインに据えた組織改革
 - (2) 個人の学びが組織の学びにもつながる
 - (3) G小の成功体験をもとに幼小連携をpjで進める
7. 実践研究の意義と難しさ
- (1) 教師不信から信頼へ
 - (2) 実践から自己を見つめ直す意義と難しさ

第4章 X

教師が育つ環境 教師を育てる環境

—させてもらえて育ち、させてみて育てる—
中山 大嘉俊〈小学校〉

1. 教師としてのキャリア
2. 各職場の異なった雰囲気の中で：教諭期
 - (1) 私の教員としての原点
 - (2) もはや新任ではない！ 周りの目とのズレ
 - (3) 共同研究での得難い体験
 - (4) ミドルリーダーへの試練
3. お仕えするという文化：教頭・指導主事期
 - (1) “仲間”とみられなくなった職場で
 - (2) 3年ひと昔、戻った職場は変わっていた
 - (3) 自分はどこを向いているのか
4. 自分で責任をとれる立場になった：校長期
 - (1) ミッションを背負って
 - (2) 生活指導や環境整備等に力を入れる
 - (3) 学校改革を進める

第Ⅱ部

教育実践の山脈を描く

第5章

教員として問い続けた「学ぶということ」

西川 潔〈小学校〉

1. 教師としてのキャリア
2. 体育科教育を軸とした実践
 - (1) 小さな小学校で教員としてスタート
 - (2) 潮田作三男先生との出会い
3. 学級担任として苦い経験と充実した10年間
 - (1) 担任としての苦い経験
 - (2) 体育科の実践を論文に
 - (3) 最初で最後の1年生担任
4. 教頭として探索の4年間
 - (1) 管理職として戸惑う毎日
 - (2) 夜間大学院進学への道のり
 - (3) 教頭として大学院での学びをどう生かすか
 - (4) 教頭がミドルリーダーのはたらきをする
5. 子どもも教師も「元気の出る」学校づくり
 - (1) 学校の進むべき方向性を示す

- (2) 慣例に捉われない
- (3) 子どもたちによる「元気の出る学校」づくり
- (4) 「元気の出る交流会」
- (5) 新たな学校での校長としてのリーダーシップ
- 6. 実践研究の意義と難しさ

第6章

同僚・生徒・保護者や地域との関わりの中で育つ

—女性教員の教育実践から学校づくりへ— 太田 洋子〈中学校〉

1. 教師としてのキャリア
2. 中学校生徒指導の模索：若年期
 - (1) 新任教員として
 - (2) 学級担任・部活動顧問として
 - (3) 自分の意識を変えた先輩の一言
 - (4) 後悔の残った卒業式
3. 荒れを生まない学年づくりへの挑戦：中堅期
 - (1) 教師としての手応えを感じる時
 - (2) 3年6組の生徒たちとの出会い
 - (3) 受験期の生徒たちへの学年教員の関わり
4. 市の教育改革に携わる：指導主事期
 - (1) 施策立案と新たな出会い
 - (2) 教育特区「ことば科」の創設
 - (3) 施策実行の壁を乗り越える
5. 地域との協働による学校づくり：校長期
 - (1) 思いがけない辞令
 - (2) 強みを伸ばし、弱みを改善する
 - (3) 校区の風を学校に呼び込む工夫と実践
 - (4) そして学校が変わった
6. 実践研究の意義と難しさ

第7章

学校教育活動の内発的改善に取り組む 長井 勸治〈高校〉

1. 教師としてのキャリア
2. がむしゃらな挑戦：若年期
 - (1) 初年度に行事担当者
 - (2) 国際スポーツ大会への関わり
3. 学校改革に取り組む：中堅期
 - (1) 学校改革への挑戦
 - (2) 普通科総合選択制高校を創り出す
4. 学校改革への取組み：教頭期
 - (1) 組織づくりから新たな取り組みへ
 - (2) 校内組織と学校運営〈もっと教員の職務をスリム化・平準化したい〉
 - (3) 学力の向上と進路保障〈生徒の持つ力をもっと引き出したい〉
 - (4) 〈もっとリーダーシップを発揮し、マネジメントしたい〉
5. 普通科高校教員養成コースの創造：校長期
 - (1) 学年末での異動
 - (2) 学校評価・授業評価の導入
 - (3) 学校改革の全体像

- (4) 教員養成系コース
- 6. 実践研究の意義と難しさ
 - (1) 実践研究の意義
 - (2) 実践研究の難しさ

第8章

学校づくり実践と教員としての成長 深野 康久〈高校〉

1. 教員としてのキャリア
2. 新設校の息吹の中で：若年期
 - (1) 二足の草鞋でスタート
 - (2) 新設校の息吹
 - (3) 「A高フェスティバル in 80」
 - (4) 科目「現代社会」の研究
 - (5) 校務で鍛えられ、研究会で成長
3. 荒れた学校の変貌を経験する：中堅期
 - (1) 生徒指導の学び
 - (2) 学年をまとめ、進める
 - (3) 心を安定させた研究会
4. 学校を支援すること：指導主事期
 - (1) 「苦情」と思うな
 - (2) 生徒指導を支援する
 - (3) 教育行政の姿勢
 - (4) チームをまとめる
5. 学校づくりを継承する：校長期
 - (1) 21世紀初頭10年間の校長
 - (2) 引き継ぎの翌日が入学式
 - (3) 学校づくりの継承と発展
 - (4) 学校づくりを次に繋ぐ
6. ライフコース研究の意義と課題
 - (1) 自ら描くライフコース研究
 - (2) 自ら描くことの困難さ
 - (3) ライフコース研究の適切なアプローチ

第Ⅲ部

教師研究へのアプローチ

第9章

教師の成長とその条件 —新たな〈能力主義〉に対抗して— 油布 佐和子

- はじめに
1. 教師の成長は、なぜ問題にされたのか
 2. 教員の成長に係る政策の変化
 - (1) 養成・採用・研修を貫く「成長」
 - (2) 「成長」のための指標—教職課程コアカリキュラムと教員育成指標—
 - (3) 「学び続ける教員を支えるキャリア支援システム」の構築—免許更新制の廃止と〈研修〉の充実—
 - (4) 施策に見る「教員の成長」の課題
 3. 施策の背景
 - (1) 学校教育の変容
 - (2) グローバリゼーション下の教育施策
 - (3) 政策が教育の現場にもたらしたもの
 - (4) 「学び」の保障という名の排除—能力による差異化—

- (5) 学校の変容と教師—競争と能力主義—
 - 4. 教育の「公共性」
 - (1) 公教育の意義
 - (2) 学校の民主主義的意義
 - 5. 「教師の成長」再考
 - 6. 「教師の成長」のために
 - (1) reflectionとその参照基準
 - (2) 教師の成長とアクションリサーチ
 - (3) 同僚としての教師
- おわりに

第10章

教師が学び合う「実践研究」の方法 —授業改善を軸にした学校改革へ— 石井 英真

1. はじめに
2. 教師としての力量形成の基本的な道筋
 - (1) 教師の仕事における実践的判断の重要性
 - (2) 教師の学びと成長のメカニズム
3. 教師の成長を促すしかけと場づくり
 - (1) 教師の学びにおける省察の意味
 - (2) 日本の教師たちの研究する文化
4. 授業改善を学校改革へとつなぐストラテジー
 - (1) カリキュラム・マネジメントの観点からの校内研修の生かし方
 - (2) ヴィジョンの対話的共有と教師たちが対話し協働する場の組織化
 - (3) 事後検討会を充実させる視点

第11章

教師のライフストーリー研究の射程 —研究史と展望— 高井良 健一

- はじめに
1. 教師の人生・生活（life）への注目
 2. 教師のライフコース、教師のライフサイクル
 3. 教師のライフヒストリー、教師のライフストーリーへ
 4. 教師のライフストーリーを実践する
 5. 教師のライフストーリーの展望

第12章

スクールリーダーの実践研究を育む —スクールリーダー研究会の役割と活動— 大脇 康弘

1. スクールリーダープロジェクト（SLP）
 2. スクールリーダー研究会の活動
 3. 『スクールリーダー研究』の企画編集
 4. 実践研究の認識論：「理論知・実践知対話論」
 5. 『スクールリーダー研究』の独自性
- 『スクールリーダー研究』総目次

おわりに 教育実践のバトンをつなぐ

■ はじめに ————— 教育実践を紡ぐ

「実践研究 教師のライフコース」は、教師自らが「教育実践の山脈を描く」実践研究に取り組み、論文として記述します。

スクールリーダーの道を選んだ教師の場合、若年期、中堅期、教頭期（指導主事期）、校長期の四つの時期を設定します。各時期の教育実践を「塊り」として取り出し「リアルに具体的に記述する」ことを課題とし、そのために教育実践の「塊り」を「コンセプトとストーリー」を持つ物語として再構成することに取り組みます。各時期で「1 実践 1 事例」に絞ることが肝要です。教育実践の焦点化を図り、その内容と過程、組織と条件について簡潔かつ「リアルに具体的に記述する」のです。当事者である教師が教育実践の「物語を紡ぐ」作業に取り組みます。

これによって教師が自らの「教育実践の軌跡と生き方」をロングスパンで把握し、自らのライフコースを「省察・探究・再構成」することになります。この教育実践者の当事者研究を教育研究者が梓づけ、助言し支援する「協働実践研究」として取り組まれました。

私たちスクールリーダー研究会はプロジェクト「実践研究 教師のライフコース」に組織的に取り組んできました。本書はその実践研究の成果を取りまとめたものです。

この「実践研究 教師のライフコース」に取り組んだ教師6名は、スクールリーダー研究会会員で「実践研究するスクールリーダー」です。教育実践者と研究的実践者という二面性を持ち、実践的・状況対応的思考と理論的・実証的思考というハイブリッドな思考の中で生き抜いてきた人々です。「学び続ける教師」「実践研究する教師」の先達者でもあります。本書では、この集団をSLA Cohortと呼びます。

プロジェクト「実践研究 教師のライフコース」を支え、実践研究の広がりと深さをもたらしてくれたのは、教師教育研究者である油布佐和子、石井英真、高井良健一、山崎準二の四氏です。本書には前三氏の研究論文を収録できました。

内容構成は、三部各4章で全12章構成です。

I 「実践研究 教師のライフコース」を創る

II 教育実践の山脈を描く

III 教師研究のアプローチ

Iでは、「実践研究 教師のライフコース」の認識枠組を提示しました。第2章で実践研究論文を提示し、第3章でそれを読み解きました。第4章で掲載した実践研究論文は、X（2020年執筆）、Y（2023年執筆）です。Xはテーマを明確にした自己形成史であり、Yは教育実践の山脈を描く実践研究論文です。二つの論文を比較対照して読み解き、本プロジェクトの目的・方法・課題について理解を深めていただきたいと思います。

IIでは、教育実践の山脈を描く実践研究論文を4本（小学校1本、中学校1本、高校2本）を収録しました。

IIIでは、このプロジェクトを支える教師研究のアプローチに関する研究論文3本を収めました。最後に、このプロジェクトの基盤となり駆動力となったスクールリーダー研究会の役割と活動に関する論稿を掲載し、締めとしました。

教育実践を紡いで、教育実践のバトンをつなぐ旅に出かけましょう。「実践研究 教師のライフコース」の世界に飛び立ちましょう。

編著者 大脇 康弘